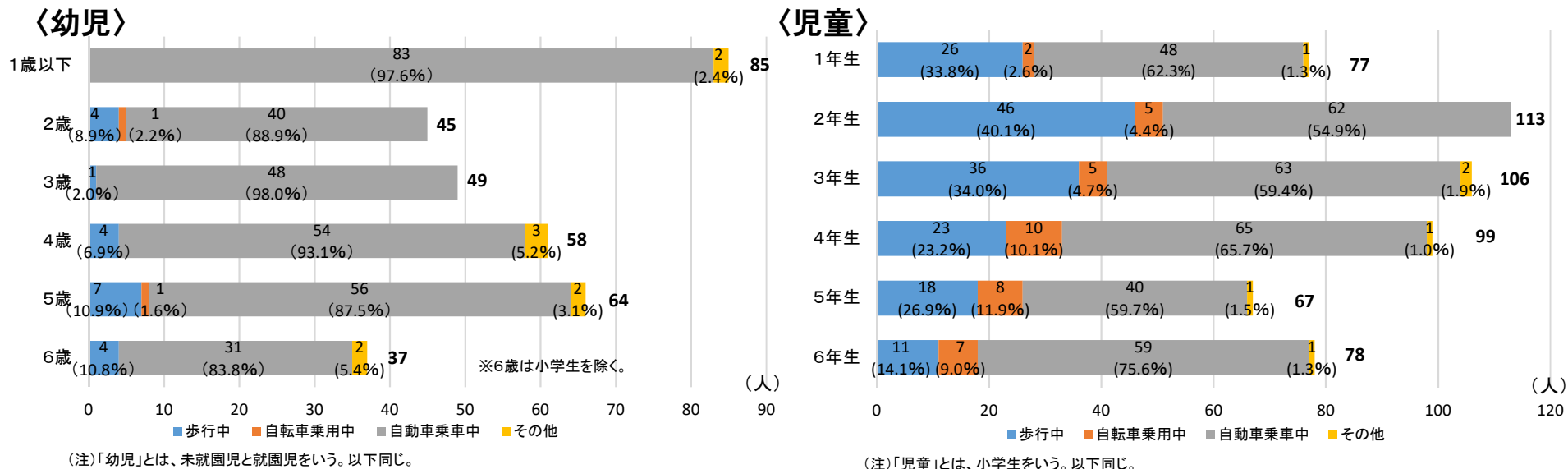


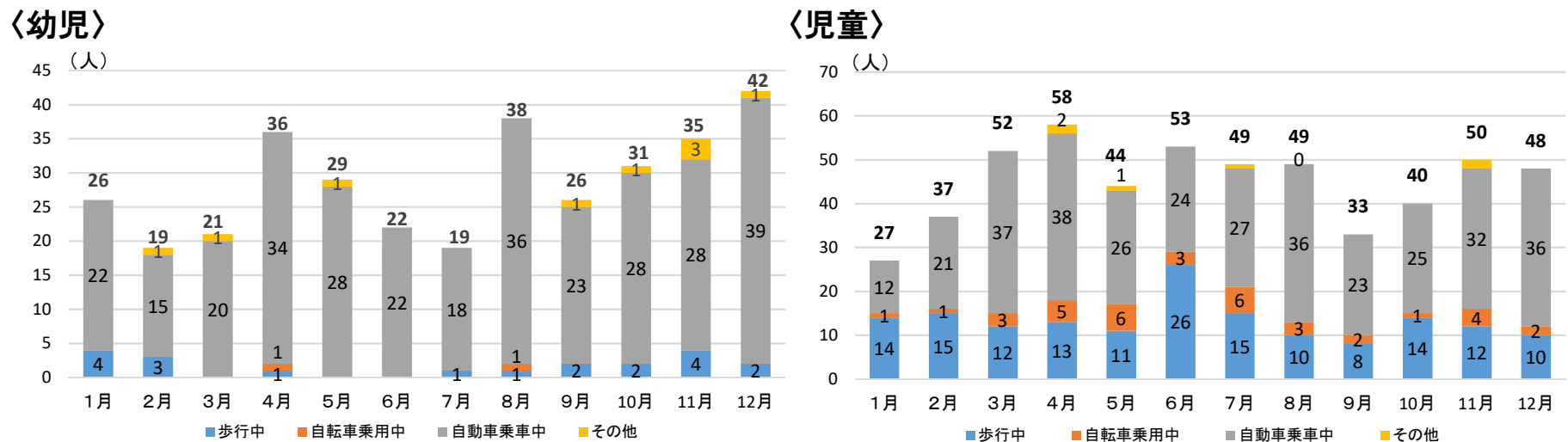
○ 幼児・児童に関連する交通事故の状況

- 幼児は「歩行中」の割合が高く、児童は1～3年生で「歩行中」、4～6年生で「自転車乗用中」の割合が高い（「自動車乗車中」を除く。）
- 幼児は、4、8、12月に事故が増加し、児童は、4月が最多

幼児・児童の状態別死傷者数【令和元年～令和5年合計】



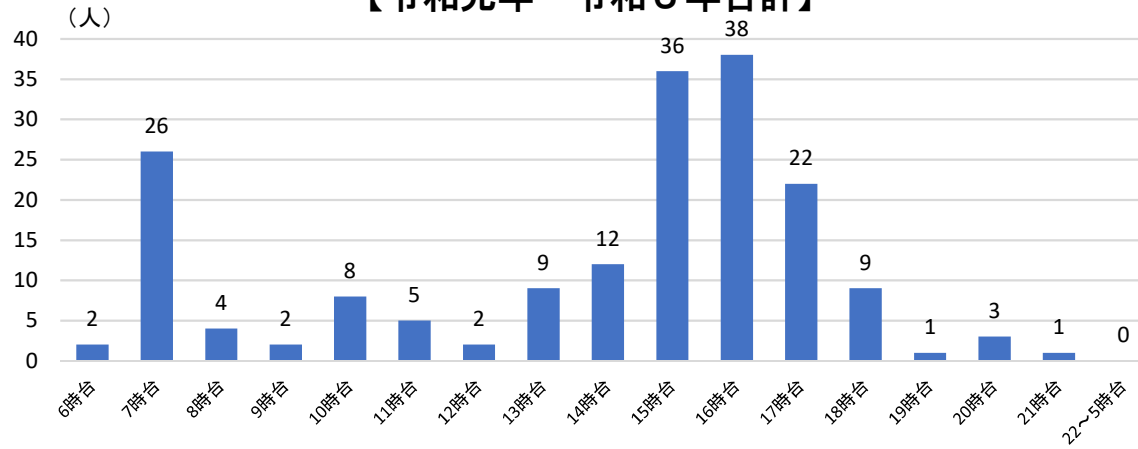
幼児・児童の月別状態別死傷者数の推移【令和元年～令和5年合計】



○ 歩行中の幼児・児童に関する交通事故の状況

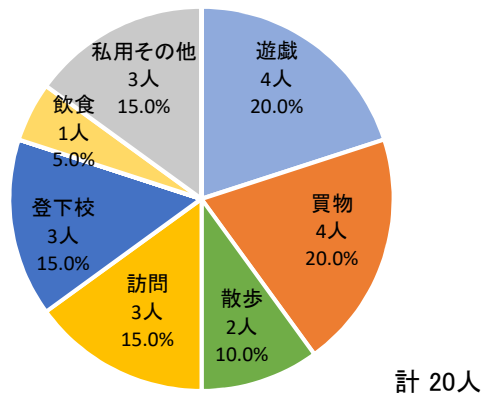
- 時間帯別では、午後4時台が最多
- 通行目的別では、幼児は「遊戯」「買物」、児童は「登下校」が最多

時間帯別歩行中幼児・児童の死傷者数
【令和元年～令和5年合計】

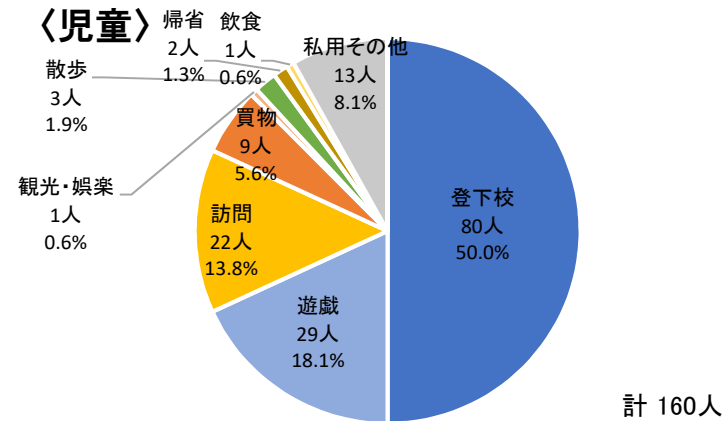


歩行中幼児・児童の通行目的別死傷者数
【令和元年～令和5年合計】

〈幼児〉



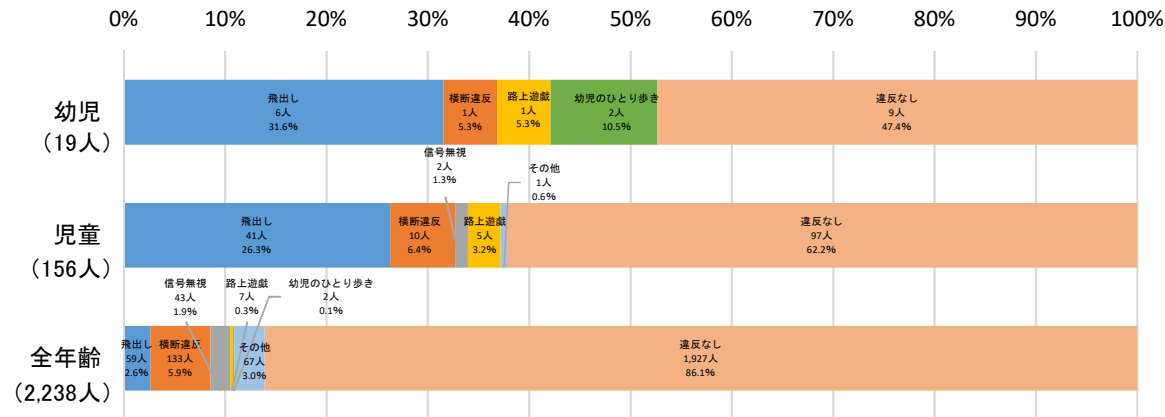
〈児童〉



○ 歩行中の幼児・児童に関する交通事故の状況

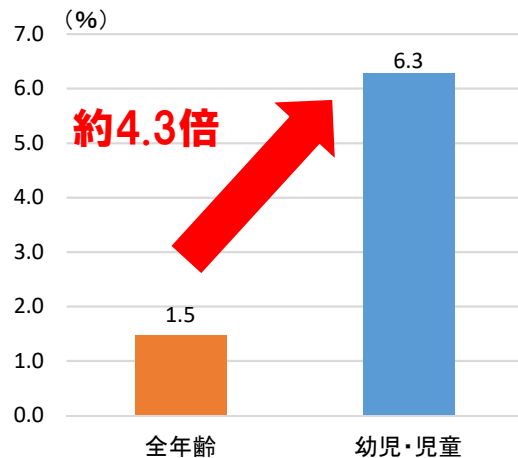
- 法令違反等別では、幼児・児童とも「飛出し」による事故が最多
- 見とおしが悪い場所での事故が、全年齢の約4.3倍

歩行中幼児・児童（第1・第2当事者）の法令違反等別死傷者数
【令和元年～令和5年合計】

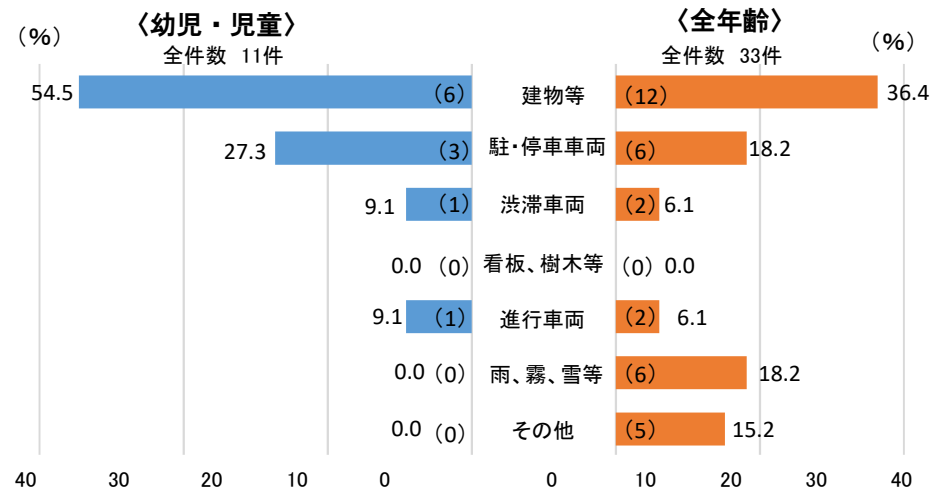


歩行中幼児・児童（第1・第2当事者）の死傷事故の現場環境
【令和元年～令和5年合計】

見とおしが悪い場所で発生した事故の構成率比較



見とおしに影響を与えた物件別の構成率

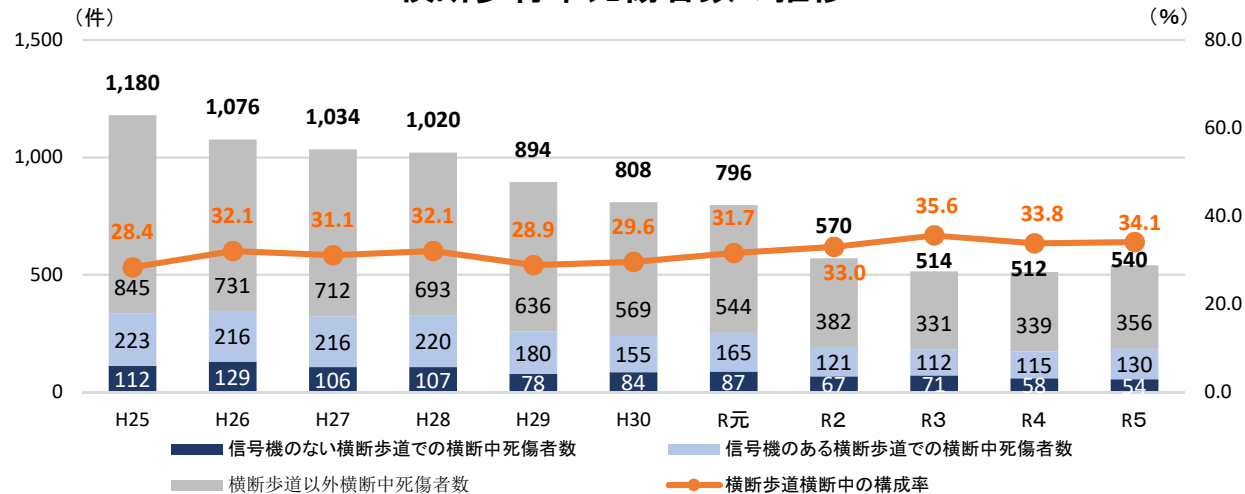


(注) 歩行中の幼児・児童が死傷した人対車両の事故において、車両側の環境的要因として「視界障害」がある事故を集計した。

○ 横断歩行者に関連する交通事故の状況

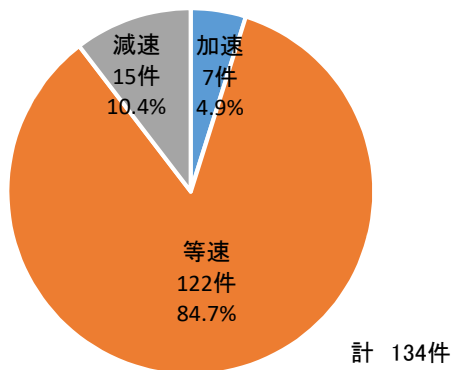
- 横断歩道横断中の事故が約3割で、構成率は増加傾向(平成25年28.4% → 令和5年34.1%)
- 信号機のない横断歩道における事故のうち、自動車が横断歩道手前で減速したケースは1割程度

横断歩行中死傷者数の推移

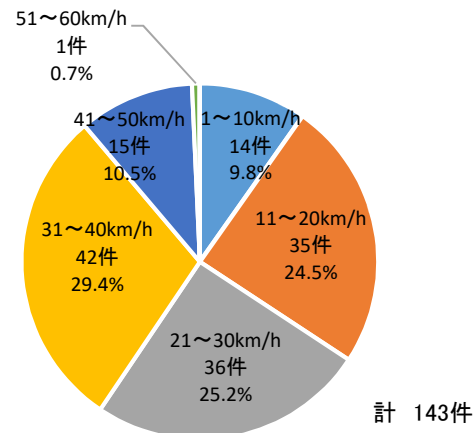


信号機のない横断歩道における自動車(直進)対横断中歩行者死傷事故の状況【令和元年～令和5年合計】

自動車運転者の行動類型別件数



自動車運転者の危険認知速度別件数



横断歩道等における歩行者等の優先(道路交通法第38条)

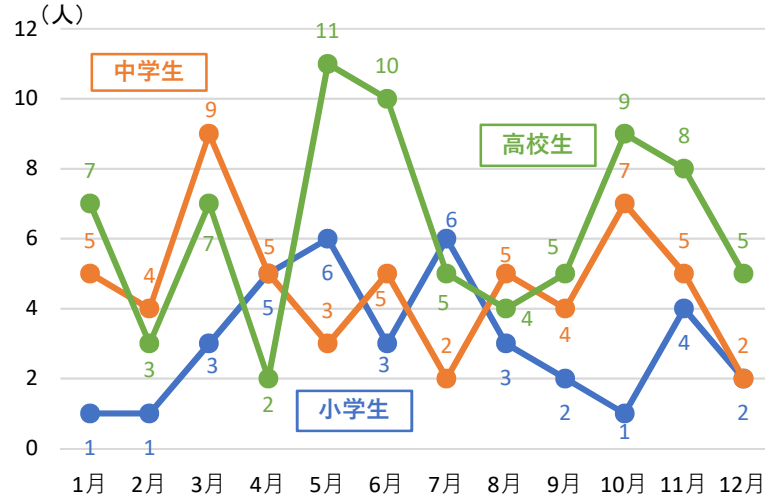
- ◆ 横断歩道を横断しようとする歩行者等がいけないことが明らかな場合を除き、その手前で停止できる速度で進行しなければならない。
- ◆ 横断歩道を横断している又は横断しようとしている歩行者等がいるときは、横断歩道の手前で一時停止し、かつ、その通行を妨げないようにしなければならない。

(注) 危険認知速度とは、運転者が相手方歩行者を認め、危険を認知した時点の速度をいう。なお、運転者が危険を認知せずに事故に至った場合は、事故直前の速度である。

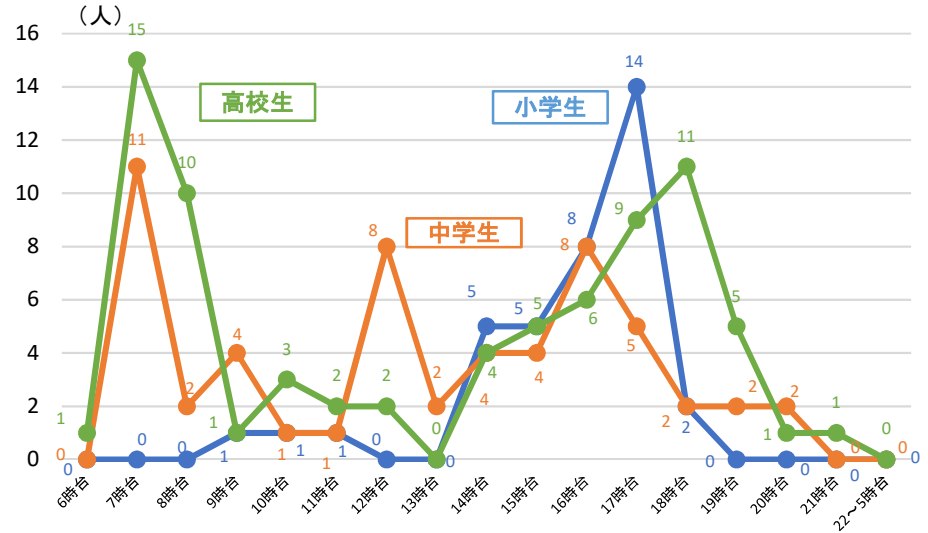
○ 自転車に関連する交通事故の状況

- 児童・生徒の自転車事故は、高校生が、5月、6月に増加する傾向
- 時間帯別では、7時台、17時台に増加する傾向
- 自転車乗用中死者の約半数が「頭部」損傷
- 頭部が致命傷となった事故はいずれもヘルメット非着用

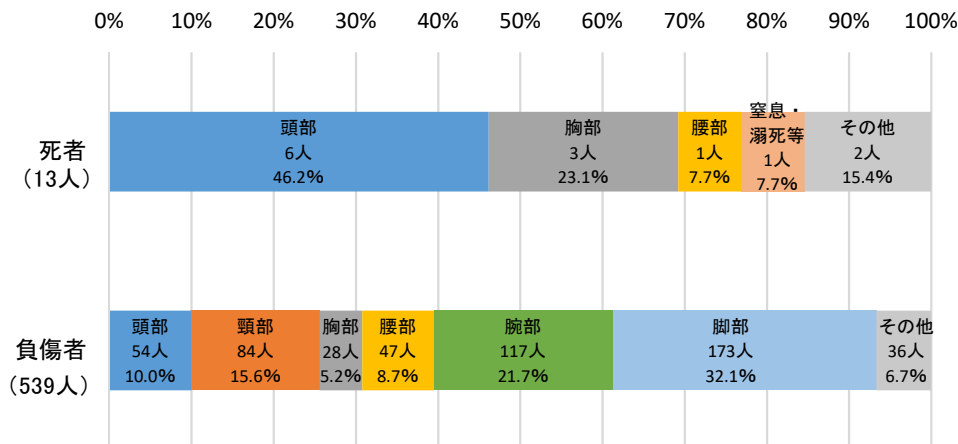
児童・生徒の月別自転車乗用中死傷者数
【令和元年～令和5年合計】



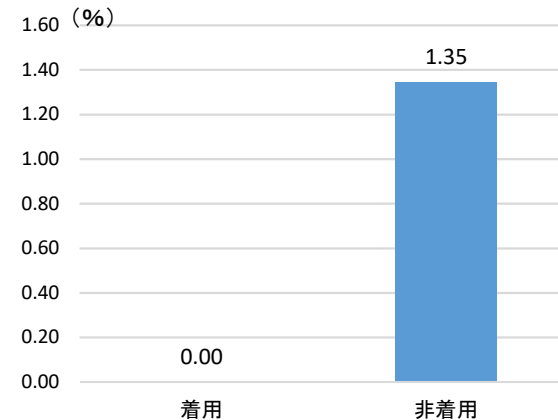
児童・生徒の時間帯別自転車乗用中死傷者数
【令和元年～令和5年合計】



自転車乗用中死傷者の人身損傷主部位比較
【令和元年～令和5年合計】



自転車乗用中死傷者におけるヘルメット着用状況別頭部致命傷率の比較
【令和元年～令和5年合計】

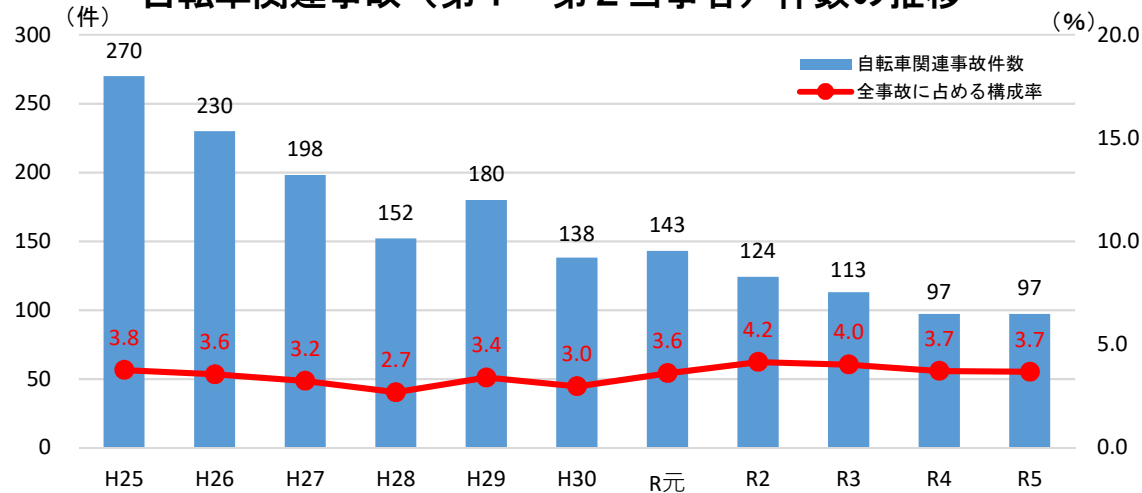


(注) 自転車乗用中死傷者に占める人身損傷主部位が「頭部」であった死者の構成率を比較したものである。

○ 自転車に関連する交通事故の状況

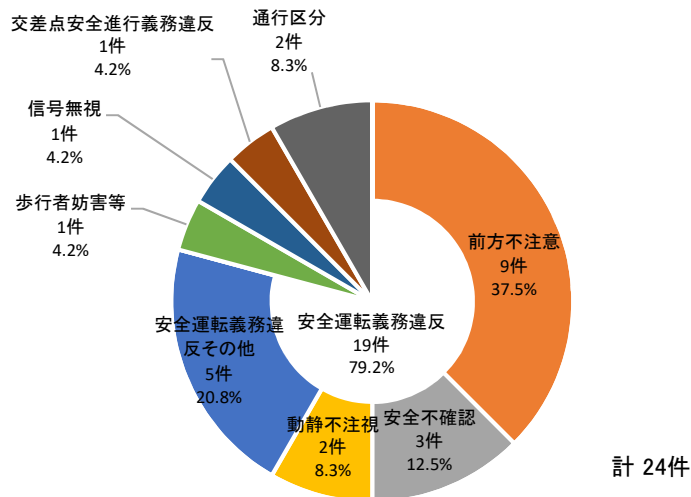
- 自転車関連事故は減少傾向、全事故に占める構成率はほぼ横ばい
- 自転車対歩行者事故における法令違反では、「安全運転義務違反」が約8割

自転車関連事故（第1・第2当事者）件数の推移



(注)・自転車乗用者が第1又は第2当事者となった事故の件数であり、自転車相互事故は1件として計上した。

自転車対歩行者の歩行者死傷事故における
自転車運転者の法令違反別件数
【令和元年～令和5年合計】



自転車対歩行者の歩行者死傷事故における
自転車運転者の人的要因別件数
【令和元年～令和5年合計】

